令和5年度　学校評価シート　　青梅市立友田小学校

＜学校経営方針の重点＞
1　確かな学力の向上　　2　豊かな心の育成　　3　健やかな体の育成　　4　地域と共に歩む学校づくり

項目	経営目標	本年度の重点	担当分掌	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 コメント	学校の見解と今後の方向性
1　確かな学力	基礎・基本を大切にし、わかる授業を実現する	自分の考えを整理し、伝える力を伸ばし、基礎・基本の定着を図る。	研究推進	校内研究を柱に、言語活動・読書活動に力を入れ、適切な表現力を伸ばす教育活動の工夫・授業の改善を図る。	B	①読書推進活動をしている。 ②くわのきでは、自立活動の内容のコミュニケーション中心のため、他の分科会との扱いについて今後検討する必要がある。 ③表現力を伸ばす工夫や改善が見られた。 ④学校全体で統一している言語活動や読書活動をもっと取り入れたい。（学年に応じた暗唱詩文集など。ただ、教員の数が少ないため、負担になるので微妙かもしれません。）	②来年度は、くわのき分科会を作らない。低・中・高学年分科会に入って、教室でできる特別支援について考え、指導案に反映できるようにする。夏のくわのき教室紹介は続けたい。 ④研究主題によっては、学校全体で統一して取り組むことは可能かもしれないが、今のところは、できる範囲で考えていく。何かよいものがあったら全体に広める。	B	・今後、特別支援教育はさらに必要とされる時代となるので、子供たちの気持ちに寄り添い、指導法を工夫してほしい。 ・読書教育・言語活動の取り組みは、特に小学校では表現力伸ばすうえで大切であると思うので推進してほしい。 ・推進体制を含め進捗と成果の見える化を検討してほしい。	・特別支援的な視点を取り入れて、さらに指導法を工夫していく。 ・読書活動については、学芸情報図書部と連携して取り組む。 ・研究推進の進捗と成果の見える化については、今後、検討する。 ・次年度、特別活動を中心に話し合いの基本を整えていく。
			学芸情報図書	タブレットなどICT機器の効果的活用、紙とデジタルの有用性を考慮し、学習指導を充実させる。	B	①タブレットを使用した方が効果的か検討しながら授業に活用してきた。紙の有用性を感じます。 ②各学級で行っていたと思う。くわのきではあまり使用していない。 ③昨年度より各学年とも、有効に活用できている。 ④研究推進の先生方が、ICT機器の効果的活用を紹介していただいている。	・概ねよく活用できているので、今後も必要に応じて活用していく。	B	・タブレットを用いる宿題（家庭学習）をもっと充実させてほしい。また、さまざまなIT機器の活用法を研究していくことが重要かと思う。 ・ICTだけでなく紙等のアナログ教材の良さも教えてほしい。 ・ICTが授業に有効に活用されているので今後も継続をお願いしたい。	・来年度は新しい学習支援システムの導入を予定しているので、他の分掌とも連携して、タブレットを用いる宿題を積極的に活用する。 ・必要に応じて紙媒体（友小ドリル）とデジタル媒体を選択しながら活用していく。
			教務	がんばりカードを活用し、家庭学習の習慣化を図る。チャレンジタイムの活用、既習事項の定着や学習内容の理解につながる課題の精選し、習熟を図る。	B	①家庭学習の習慣化はなかなか厳しいものがあり、課題である。保護者にも更に協力を仰いでいきたい。 ②チャレンジタイムの活用が学習内容の理解や学力向上につながるのか検討する必要がある。 ③がんばりカードよりもさらに良い方法がないか検討したい。家庭学習の時間を集計しているが、それが本来の目的とは異なるように感じている。	集計データではどの学年も9割を超えているが、手書きの数字は信憑性が低い。データと実態があっていない可能性がある。家庭学習の定着は青梅市としての取り組みでもあるので、具体的な取り組みについて教員からアイデアを募集し、来年度の取り組みに生かしていく。保護者もどのように取り組ませればいいか分からない点も懸念されるので、具体的な取り組みを資料にして保護者に発信する。デジタルドリル活用で、ログイン時間や取り組み時間が簡単に把握できるので、それを活用する。	B	・基礎学力を身に付けるために良い取り組みだと思うので継続してほしい。 ・家庭学習の習慣定着については、家庭の意識も重要であると思う。 ・タブレットを用いた宿題を出すことで、子供の興味を喚起してみてはどうか。 ・デジタルドリルそのものの充実化も検討してほしい。 ・家庭学習定着のための具体的な取り組みが明記されていてとても良い。	・HPやスクリレ等を活用し、家庭学習への取り組みについて、具体的な内容を継続的に発信していくことで、保護者の協力・理解を求める。また、HPに各学年の学習の進捗状況等を掲載する。 ・家庭学習がんばりカードとデジタルドリル教材を併用することで、基礎学力の定着を図る。 ・次年度はチャレンジタイム（昼）を朝学習に移行する。学習内容を学校で統一し、習熟を図る。
2　豊かな心	命を大切にし、思いやりの心や社会規範を身に付けた子供を育成する	基本的な生活習慣を養うとともに、他者を大切にする心を育成し、いじめゼロを目指す。	生活指導	挨拶について、各学級で指導し、振り返りの時間を設ける。家族、友達、教職員、地域の知り合い等に、自分から挨拶ができるように指導する。	C	①昇降口、廊下でこちらから挨拶するようにしている。挨拶が返ってくる子の方が少ないように感じる。 ②あいさつは、出来る児童が増えてきたが、自らとなると厳しい。 ③自分から挨拶をする児童は限られていると感じている。 ④校内の先生方に対してなかなか挨拶ができないのはどうしてでしょう。教師がお手本で自ら先に挨拶をしても、児童がなかなかあとに続かない。（昔からの課題）	・月目標が挨拶の月には、全校昼会の生活指導主任の話であいさつの話を入れる。その時に、自分から進んで挨拶ができている児童（校長にピックアップしてもらうなど）を全校児童の前で称える。	C	・挨拶は人間関係の基本であるので、辛抱強く指導してほしい。（自分も子供のころ挨拶ができなかったような記憶があるので、あきらめずに指導してほしい） ・子供たちはこちらから声を掛けると皆返事してくれる。大人からの声掛けも大切であると感じる。	・学期ごとに実施している「あいさつの輪運動」で、児童会や各学年の児童が廊下に並んで全校児童に挨拶を呼びかけている。また、登校時刻には昇降口に教員が立って挨拶の声掛けをしている。これらの活動を継続する。 ・都の挨拶イベントに応募予定。
			生活指導	丁寧な言葉遣いについて、「チクチク言葉」と「ふわふわ言葉」等具体的な例を挙げたり、話型を示したりして具体的に指導を行う。	C	①学校全体で取り組んでいるので意識は高まりつつあるが、一部の児童（家庭を含める）には浸透していないように感じる。 ②意識する児童は増えていると思うが、なかなか実際にはできていない。 ③丁寧語を中心とした言葉の指導をしているが、汚言を使う児童が依然としているため。 ④インターネット等のインパクトや年上のきょうだい等の影響が大きくて、指導がなかなか入らない。	・言葉遣いの指導としては学校全体として取り組んでいるが、全体指導だけでなく、個別指導の際には個々の児童の背景に沿った指導を行っていく。 ・語彙の少なさを補うために、ふわふわ言葉の例示も継続して指導していく。 ・気持ちの表現のしかたやコントロールのしかたを、必要な児童には根気よく指導を積み重ねていくことが必要である。	C	・友田小学校の職員はよく工夫しながら指導をしていると感じている。また、家庭での日常の言葉遣いが重要であると考える。テレビやインターネットの影響も大きい。現代風に動画や映像等を駆使しながら、粘り強い指導をお願いしたい。	・言葉遣いの指導については、必要に応じて全体指導と個別指導を使い分け、発達段階や場に応じた話し方を指導し、安心して話せる言語環境を整える。また、気持ちの表現の仕方やコントロールの仕方等を粘り強く指導していく。
			生活	児童相互の交流活動の充実を図り、互いを思いやり他者を意識した行動ができるよう指導する。また、いじめの芽となる人間関係の調整を早期に行い、安心して生活できる教室環境を築く。	B	①なかなか厳しいと感じている。 ②互いを思いやり他者を意識した行動ができるように指導をしても、学年によっては特定の児童に対する関わりがいじめの芽となるような言動が見受けられることがあるため。	・互いを思いやり他者を意識した行動ができるように学校全体として取り組んでいるが、全体指導だけでなく、個別指導の際には個々の児童の背景に沿った指導を行っていく必要がある。 ・「いいこと見つけの花束」で互いを思いやり他者を意識した行動ができるように引き続き指導する。	B	・友田小の伝統として、学年を越えた付き合いが深いと感じているので、交流を活性化せてほしい。 ・子供たちだけでなく、大人の社会でもご近所の交流等が気迫となっているので、そのことも子供たちが人間関係を築くことの困難さの原因であると考える。 ・他者への思いやりを身に付けることは大切な教育であると感じている。これからも指導を続けてほしい。 ・学校だけの取り組みでは難しいと思う。保護者アンケートの回答率が低いように思うので、保護者と学校が協力して改善できるよう検討してほしい。 ・友達の気持ちを考えながら、自分の気持ちも適切にコントロールし、表現できるようになることを望む。子供たちのトラブルにいての友田小サイドの[illegible]	・いじめ防止週間には学級ごとに「いいこと見つけの花束」やいじめ防止のための「スローガンづくり」等の活動を実施している。今後も他者への思いやりを身に付けられるように取り組みを続けていく。 ・「友田の子」を共通マナーとして、日常的に児童に意識させていく。 ・たてわり活動をはじめ児童が互いに交流できる機会を増やしていけるようにする。
			特活		B	①全教員が同じ視点で見守ることを継続していきたい。 ②たてわり班活動や今年取り組んでいる休み時間の異学年の交流など、少しずつ活動が増えてきている。続けられると、大きな変化につながるような気がする。 ③児童間の関わりが良くなるような特別活動を提案してもらったため。 ④たてわり活動を充実させることで、上級生の下級生に対する面倒見がよくなり、思いやりの心が育ちます。まずは、活動回数を増やしてみてはどうか。（教務と連携）	④年間を通して、たてわり活動は少ないと感じた。教務と相談して回数を増やしていきたい。基本は外遊びとし、担任と専科で担当する。また、1年と6年など兄弟学級を行事に絡めていくことも交流として有効なので、手立てを考えていく。			
3　健やかな体	心身ともに健康な体を育成する	健康な体を育成するため、自ら運動に親しむ態度や危機管理能力を養い、心身共に健康的な体を育てる	体育行事	外遊びを奨励し、マラソン旬間、縄跳び旬間を実施し、運動に親しみ、体力を高める。	B	①よく取り組んでいる。 ②1週間を通して、特定の学年の児童が外遊びを行っていないことがある。 ③女子を外に出せるように善処します。 ④2週間毎日行うよりは、月水金など日にちを開けて取り組んだほうが、児童のやらされている感が少なくなるのでは。	②委員会や学年の仕事等をしていない場合は、中休みか昼休みのどちらかは外に出たほうが良いことを担任に継続して声掛けをしてもらうようにお願いしていく。運動委員会による運動タイムを継続して行っていけたらと考えている。 ④昼休みは自由にしているので、期間中は毎日行っていく。	B	・体力向上の取り組みを今後も継続してほしい。 ・奥多摩渓谷駅伝での活躍は他の児童への良い刺激となったと思う。今後の継続に期待している。	②次年度も体力測定・運動会・持久走・短縄を中心に体力の向上を図っていく。運動委員会の仕事内容の精査を含め、全校児童の体力が向上する取り組みを増やしていく。 ④学校便り、HP、全校昼会等を活用し、地域行事のアナウンスを続けていく。
			体育行事	体育指導（運動の量・質など）を充実させ、体力向上、健康増進、運動の日常化に努める。	B	①行事の内容は、精選できつつあり良い流れである。 ②運動技能や体力が全国の平均よりも結果が低い。 （学年や種目により実態が違うが、全般的に言える。）	②低い項目の中でも、児童の実態に即して、ポイントを絞って上がるようにしていく。今年度は短縄に注力しているので、マラソン旬間を含め、持久力を高めていく。また、前述した②を行うことでも改善が見込めると考えている。ちなみに、肥満度は高くない。	B	・体力向上の取り組みを今後も継続させてほしい。 ・奥多摩渓谷駅伝での活躍は他の児童への良い刺激となったと思う。今後の継続に期待している。 ・改善策が具体的で良い。	②体力向上について長期的に取り組むべき課題ととらえ、領域を絞って体力を高めていく。領域の絞り方としては、全教職員間でから意見を募るか、体育行事委員会内で考えを示していくか、時間をかけて検討していく。
			生活指導	定期健康診断の結果や児童の実態をもとに、児童及び保護者の健康管理への意識啓発に努める。	B	①児童向けの細かな情報発信ができている。 ②毎月、保健だよりが発行されたり、学校全体として注意したい感染症についてアナウンスができていたりする。	・保健だより等を通して児童及び保護者への啓発活動を継続していく。	B	・健康指導の取り組みを今後も継続させてほしい。 ・感染症予防への取り組みにもっと力を入れてはどうか。 ・感染症の状況等引き続き情報の発信をお願いしたい。	・3学期身体計測の前には、養護教諭が各学級に入り、保健指導で感染症予防(かぜの予防に努めよう)の指導を行っている。来年度も継続していく。
4　地域と共に	学校・家庭・地域が一体となった開かれた学校をつくる	地域のことを知るとともに、学校での教育活動を保護者・地域に知らせる。	学芸情報図書	学校・学年での様子を、各種便り、スクリレ・HP等を活用して広く公開する。	B	①昨年よりもHP公開頻度が上がった。 ②教員みんなでHPに記事を載せたことがよかった。 ③学年だよりのアップがよい。 ④スクリレの活用や即時配信など、活用できつつある。HPの更新は、依然として難しい。 ⑤学校だよりのチェックは職員全員で行ってはどうか。情報の共有にもなる。	・学年だよりのアップやスクリレによる配信などに慣れ、割と手軽に利用できるようになってきた。今後も引き続き有効活用していく。また、担任も気軽にHPが更新できるように委員会でサポートしていく。 ・学校だよりについては管理職判断。	B	・スクリレの使用等でペーパーレスにつながっているのでよいと思う。（情報共有にも便利） ・スクリレ導入当初は、気軽に欠席連絡できるために、欠席者が増えるのではないかと危惧していたが、杞憂であった。連絡方法が容易となり、教職員の負担も軽減され良かったと思う。 ・どの学校も同じようなホームページになっているが、友田小のページも特色が少なく見難い。	・スクリレで欠席連絡ができるようになったことで教職員にとっても保護者にとっても利便性が高まった。引き続き活用していく。 ・HPについては、読み手に求められる情報を考慮し、内容の充実について考えていく。
			教務	地域の文化財の活用や文化財に関する学習や自然環境を生かした学習等を通して、地域愛を育む教育（青梅学）を実践する。	B	①学年によって差はあるが、意識して取り組むことができている。 ②コロナも第五類に移行され、地域や自然環境を生かした学習等が、多くの学年で行われていると感じる。 ③市教委からの情報がもっとあると取り入れやすくなる。	①コロナ回復で各学年が様々な取組を行っている。外部講師を呼んだり、行事も増えたりした。今は回復している途上なので、保護者にはその実感があまり伝わっていないと思われる。学校からこれまで以上に情報発信をし、取組を知ってもらう。情報発信の方法は改善していく必要がある。地域の掲示板などもいいが、今の親の世代はスマホがインフラ化しているので、紙・デジタルは状況に合わせて使い分ける必要がある。 ②年度ごとに、各学年の取組を明文化する。 ③友田小は地域の行事が多いので、生活科や総合的な学習の時間に取り入れて行くことも検討。	B	・地域についての学習を活性化させてほしい。 ・保護者にも地域の行事等を知ってほしい。 ・友田小は地域とのつながりが、他の地域と比較すると強い傾向がある。以前のように学校行事として5年生キャンプやどんと焼きを行うことは時勢柄無理としても、やはり、伝統を伝承し、多くの大人が子供たちと関われる場があることは、やはり重要であると感じている。これからも地域の行事には協力をお願いしたい。 ・コロナ5類以降以後、様々な行事に子供たちが参加することで、経験の幅が広がっていると思う。	・地域についての学習については、児童に積極的に地域行事等への参加を促し、「ふるさと青梅」に対する郷土愛を育み、伝統・文化への理解を推進する。また、地域の各団体（自治会等）に広く協力を呼びかけることで、労力を分散させ負担を減らすことが望ましい。 ・地域の各団体と協議・協力しながら行事の内容を精査することで、時代に合わせた行事を作っていくことが必要である。
その他の重点	指導力等の向上を図り、組織的な学校体制をつくる	業務の効率化を目指しつつ、指導力の向上等、人材育成を推進する	担当	教職員間の連携を密に取り、校内研究やOJT研修会や学び合いを通して、教員の資質や指導力向上を図る。	B	①校内研で授業力を高めてきた。また、担任と連携をとり児童の情報共有に努めた。 ②今年はOJTが活発にできている。 ③校内研究やOJT研修会や学び合いの機会が、増えたと感じているため。	今年度は、まず校内にOJTの流れを確立することを目標にしていたため、それは概ね達成できた。来年度は、さらに教員の指導力向上やICT活用事例の紹介等の内容で取り組んでいく。	B	・先生方の授業力の向上等も重要だが、もっと子供たちの気持ちをくみ、見守る時間を増やしてほしい。 ・教職員の資質向上にOJTが有効であると思う。 ・子供たちへの教育の在り方も年々変わりゆく中で、研修会や研究会を企画してきた教職員には頭が下がる思いである。 ・授業が分かりやすく、意欲的に取り組まれていると思う。	・今年度、約10回、月1ペースでOJTを開催することができた。短時間で教職員のスキル向上に貢献することができた。次年度は、より計画的に研修を進めていく。
			教務	「チーム友田小」として、教職員がそれぞれの持ち味を発揮し、協働して指導にあたる。教育目的を担保しつつ、業務の見直しおよび効率化など、働き方改革を推進する。	B	①かなり進めてきているが、まだまだ可能性を感じる。 ②拠点校に戻った時、できる限り担任補助に努めている。 ③くわのきは巡回しているので、協働しているができない部分があることを理解していただきたい。 ④チームとしての不安な部分がある。連絡や結果のオープン化（見える化）が必要だと思う。高い意識を持って取り組むことでチーム力を更に向上させることができる。 ⑤学級担任に負担が掛かっている状況がある。 ⑥勤務時間後なので難しいが、17時には管理職が不在になってしまうこともあり、担任が落ち着いて相談できるようにしたい。夕方、電話の対応に追われて、学級事務まで手が回らないことがあるので、管理職等に協力を仰ぎたい。	くわのきとの情報共有について、月曜日が夕会になると、1週間の状況など共有し合うことができるので、実施したい。校内委員会と隔週で行うか検討。（経営会議とのバランスも考慮して）	B	・友田小の教職員は、多忙だと思うがお互いに協力して対応してくれていると思う。チームでの組織的な対応が重要である。 ・一人一人の教職員が情熱を持って頑張ってほしいと思う。	・小規模校で職員の数が少なく、一人当たりの分掌が多いため、一つ一つの取り組みを精査し、より効果的・効率的な学習や活動に取り組んでいく。 ・副担任業務など、業務内容を整理し、互いに助け合い、全体としての業務改善を図る。
その他自由意見			教務	①各分掌の話し合いの時間を設定してほしい ②学校評価が1年に1回だと、それまで気づいたことを忘れてしまうため、常時投稿できる場所があるとよい ③くわのきがいない日に夕会があるので、直接顔を見て話す機会が少ない。校務分掌的な連絡事項もあるので、月に一度は水曜日の夕会があってもいいのでは。 ④次年度から、生活時程が変わるが、3学期に一週間ほどお試し期間を作ってはどうか。 ⑤転出入の書類について→「担任」となっている部分は殆ど「担当」ができることのように感じる。一覧の表を新しく作り直してもよいと感じます。		①くわのきの教員が不在の状況で日程を組み込むのはかなり難しいので、もう少し時間をかけて検討する。 ②学校改善につながるため、ぜひ設定していけるよう検討。 ④日程を確認し検討。 ⑤精査する。	B		①R6年度は、月曜の振替が多く、設定が難しいため、各分掌で柔軟に対応していく。 ②現在準備中です。 ③現在、水曜日に設定されている会議終了後に、ミニ夕会を設定しているので、それと日誌を活用して情報共有していく。 ④教務部で現在精査中です。次年度には、新しいものを用意する。
			特活	①委員会活動で、集会委員会が保健委員会と統合してできた経緯から、委員会目標に保健に関する文言を入れるようになっていたり、「年1～2回保健集会を開くこと」と決まっていたりする。なぜそれを入れなければいけないか児童もピンときていない中、養護教諭主導で保健の内容を入れ込むことに無理があるように感じる。保健委員会をなくしたのであれば、無理やり入れ込もうとしなくて良いし、入れるのであれば、委員会の名前を集会・保健委員会とすべきではないかと思いました。 ②今年度、図工の連絡掲示板が昇降口横に設置された。クラブや委員会の連絡掲示板も同じようにあると、三役が担当の先生に事前に聞いたことや計画したことを事前に連絡できてよいと思う。		①集会委員会は、集会を行うことに集中してもらえれば良い。もし、保健的な話が必要なら、朝会等で養護教諭が行えばよいのではないか。 ②クラブは持ち物や実施場所の関係で掲示できる場所があると助かる。3階階段上がったところはどうか。	B		
			くわのき	①時間割や月の回数を伝えていただいているのでとても助かります。紙ベースだと、処理に手間がかかってしまうので、データで管理することは可能でしょうか。そのデータを確認することで、情報を把握することができるため。					
			管理職	①友田小のよさや一体感を、教員のリーダーシップで、または児童のリーダシップでさらにパワーアップしていけるとよいと思います。					
			その他	①周りの先生方に支えられて今日までやってこれました。本当にありがとうございます。					